



国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所

海上技術安全研究所 国際会議報告



会 議：国際標準化機構（ISO）船舶及び海洋技術専門委員会（TC 8）第 42 回総会

開催場所：Divani Apollon Palace & Thalasso、アテネ（ギリシャ）

会議期間：2023 年 9 月 18 日～22 日

参加者：12 カ国 4 機関から 60 人

海技研からの出席者：宮崎 恵子 国際連携センター長

#### 概要：

- ISO/TC 8（以下、TC 8 と略す）は、TC 8 傘下の分科委員会（SC）議長と幹事が参加し、TC 8 議長と幹事により開催され、TC 8 の標準化方針の審議及び各 SC の 1 年間の活動報告がなされるものである。
- TC 8 議長からは国際海事機関（IMO）との連携が重要であることが述べられると共に、主として、GHG 削減に関係する規格等について方向性等が審議された。また、自動運航船及びスマート SHIPPING（ビッグデータ、IoT、センサー等）に関して議論された。
- 海事における温室効果ガス削減分科委員会（SC 14）を設置することと、TC 8 直下の WG 10 を移行してスマート SHIPPING 分科委員会（SC 15）として設置することが決議された。



TC 8 総会の会場の様子



SC 1 議長からの報告（宮崎）

#### 主な貢献

宮崎は、2023 年 5 月に海上安全分科委員会（SC 1）議長に就任し、SC 1 の活動報告を行った。また、TC 8 から IMO への出席者と提案文書を適切に管理するための内部用ガイダンスを策定することとなり、宮崎と SC 1 幹事（米国海岸ガード）は、その策定を支援することとなった。

#### 主な審議結果

初日は TC 8 議長及び幹事、各 SC の議長及び幹事による Managing meeting が、二日目と三日目及び最終日に、TC 8 総会が開催された。また、四日目には、Industry visit でアテネ工科大学



(National Technical University of Athens) を訪問した。なお、審議結果の詳細については、他機関の報告を参照願いたい。

## 1 TC 8 の標準化方針の審議

TC 8 議長からは、IMO の動向が報告されると共に、IMO と連携して、温室効果ガス削減及び自動運航船に関して、TC 8 で戦略的に取り組むことの重要性等が述べられた。GHG 削減に関係した規格は、これまで TC 8 の複数の SC で審議されていた。そこで総合的に取り組むため、今次会合では、海事における温室効果ガス削減分科委員会 (SC 14) を設置することが決議された。

自動運航船に関しては、TC 8 は直下に設置したスマート SHIPPING 作業部会 (WG 10) で、ISO/TS 23860 (自律船舶システムに関する用語) を作成し、IMO での自動運航船の規則開発に貢献している。今後さらに積極的に取り組むため、今次会合では、この WG 10 を格上げする形で、スマート SHIPPING 分科委員会 (SC 15) として設置することが決議された。

## 2 各 SC の 1 年間の活動報告

各 SC 議長並びに TC 8 直下の各 WG 議長等により、1 年間の活動報告がなされた。宮崎は、SC 1 議長として、SC 1 は、WG 1 (救命)、WG 2 (安全器具)、WG 3 (防火) から成り、WG 2 議長が投票中であること、6 月に東京で開催した SC 1 総会と 3 つの WG の成果等を報告した。SC 1 を含む TC 8 の課題として、TC 8 から IMO の各委員会及び小委員会への出席及び提案文書が、現時点では TC 8 議長と幹事のみが確認しているが、関係する SC 議長及び幹事にも情報共有し、適切に管理する必要があることを問題提起した。その結果、IMO への出席及び提案文書のプロセスに関する内部用ガイダンスを策定すること、並びに、SC 1 議長と幹事がガイダンスの必要事項案を作成することが決議された。

## 3 次回の会議予定

TC 8 総会はアジア、欧州、北米、南米といった各地域で均等に開催する方針となっており、来年度はブラジル開催の方向となっているが、韓国も招致しており、未定である。

以上